



データボード⑧9

- ① 福岡県甘木大字菩提寺
- ③ 土蔵の白壁、格子

甘木市の秋月地区は、鎌倉・戦国時代の雄、秋月氏が築城した山城跡で、秋月氏の時代から約四百年のちは黒田家の分家五万石の城下町として栄えた山紫水明の地である。

杉の馬場の桜、城址の名月、歴史を秘めて紅葉散る山門、そして黒門や長屋門はうるおいのある武家屋敷の石堰とともに、四季豊かな風物に恵まれた城下町の面影を濃く残している。「秋月の街並」は、心なごむ風景をもっており、いつまでも住みよいところであるように伝統的な建物や街並みの保存を図り、建て替えにおいても街並みの秩序を配慮し、調和の取れたまちづくりを行っている。